

日本学術振興会第4期中期計画に係る国際戦略

- 本国際戦略は、平成25年5月に策定されたJSPS国際戦略を改訂するもので、我が国の研究者・研究機関が世界の学術研究をリードすることを目指し、第4期中期目標・中期計画期間中に国際的な取組を行う際の指針として定めるものである。なお、改訂に当たっては、外部評価及び平成29年8月25日の文部科学省による「独立行政法人日本学術振興会の見直し内容」を踏まえ、外部有識者の意見を聴取した上で、日本学術振興会（以下、JSPS）において検討・策定した。
- JSPSは、昭和7年に創設された当初から学術の振興を担い、我が国初の政府の日米二国間科学協力事業において、米国国立科学財団（NSF）の対応機関となったことを契機として特殊法人となってからは、特に学術国際交流事業を中心として事業を拡充してきた。現在、科学研究費助成事業や人材育成事業をはじめ、JSPSの業務の幅は広がっており、我が国を代表する学術振興機関として、我が国のみならず世界の学術の振興に積極的な役割を果たすことが求められる。
- 学術研究における国際的な頭脳循環が活発化し、また競争も激化する中、最先端の知の創造のためには、経験や発想の異なる多様な研究者や組織が国境を越えて交流・協働することが重要である。そのため、研究者が個人の自由な発想に基づく研究活動を行うとともに国際的な場で挑戦しやすい環境を可能な限り創出する必要がある。
また、そのような世界レベルの研究ネットワークに身を置き、国際的な頭脳循環の中で切磋琢磨し続けることが、我が国の研究者が世界の学術研究をリードしていくことにつながる。我が国の研究者・研究機関の活躍が世界から見えることにより、世界の優秀な研究者を引きつけ、卓越した知を生み出す国際的研究ネットワークが強固になる好循環を作り出すことがJSPSに求められる役割である。そのため、JSPSでは諸外国の学術振興機関や研究者コミュニティ等と連携し、そのような好循環の促進を目指し、第4期中期目標・中期計画に掲げられる各種事業に取り組むこととしている。
- 本国際戦略においては、研究者の自由な発想に基づく研究活動を支援するボトムアップの考え方を基本としつつ、中期目標の効果的な達成のために組織全体で特に優先的・重点的に取り組む事項を指針として明らかにする。具体的には、第4期中

期目標・中期計画期間における国際的な取組に関して以下の取組を推進するとともに、改善等に時間を要するものについては、次期中期目標・中期計画期間の開始時点で新たな取組に速やかに着手できるよう、必要な検討・準備を今期間中より行う。

- なお、本国際戦略は、国内外の研究環境等を巡る状況の変化や JSPS 内における事業横断的な国際展開の進展状況を踏まえ、必要な見直しを行うこととする。

(1) 組織の改革と国際的な視点をもった事業の展開

第4期中期目標・中期計画期間においては、従来の学術国際交流事業だけにとどまらず、JSPS のすべての事業において国際的な視点に立った事業の展開を図ることとしている。このため、平成30年4月に理事長直轄の組織として国際統括本部を新設した。また、諸事業に係る情報を横断的に活用し、学術研究の動向・成果を総合的に把握・分析するとともに、事業の改善・高度化に向けた調査研究を行う学術情報分析センターを設置した。JSPS の組織のあり方については、これらの組織再編の効果を検証しつつ、引き続き見直しを行う。

(2) 国際共同研究の強化

世界をリードする学術研究を推進するため、我が国の研究者がグローバルな研究ネットワークにおいて存在感を増すことができるよう、国際共同研究への支援を強化する。

科学研究費助成事業においては、国際共同研究を加速するための仕組みが導入されているが、これを着実に実施するとともに、必要に応じ改善を行う。

海外の学術振興機関との連携により行う国際共同研究への支援については、科学研究費助成事業との役割分担の明確化、審査を一方の機関で行うリード・エージェンシー方式の試行的導入などにより、改善、充実を図る。

(3) 現行の学術国際交流事業の見直し

JSPS の学術国際交流事業は、学術研究活動のグローバルな展開に対応しつつ、持続的な研究者ネットワークを構築するうえで、大きな役割を果たしてきている。また、事業の実施に伴う海外の様々な学術振興機関との関係の維持強化は、強固かつ双方向の国際研究基盤の構築・発展にとって重要である。

他方で、これまでの学術国際交流事業の中には、海外の学術振興機関との個別の協議等に基づく小規模なものが少なくない。限られた人的・財政的資源を有効に活

用するため、対応機関との関係にも留意しつつ、研究者からの需要が比較的少ない事業については、縮小・廃止や他事業との整理・統合を図り、事業の重点化を進める。

また、JSPS が進める国際的な取組に関する情報について、内外の研究者が容易にアクセスすることができるようわかりやすい発信に努める。

(4) 海外研究連絡センターの改善・強化

海外研究連絡センターが、日本の学術研究を世界に発信するプラットフォームとして、また、特に若手研究者が海外展開を図る際の足がかりとして、その機能を最大限に果たせるよう、各センターに求められる機能やその発揮状況等を分析した上で、設置国・地域に応じた役割及び事業の優先度を明確化し、事業実施体制を含めた改善・強化策を検討する。その際、必要に応じ、設置数・場所・設置形態等を見直すことも検討する。

また、我が国と諸外国との戦略的・持続的な学術交流の発展に資するとともに、研究者ネットワークのハブとして発展していくため、各センターにおいて、JSPS 事業経験者を核とする外国人研究者コミュニティ及び在外日本人研究者コミュニティの拡充・強化を図る。

(5) 若手研究者の養成と研究環境の国際化

我が国の若手研究者の更なる研究能力の向上及び国際的な研究者ネットワークの構築のためには、海外で研鑽を積む経験を得ることが重要であることから、引き続き、海外特別研究員事業、若手研究者海外挑戦プログラム、特別研究員事業等の一層の拡充を図る。

また、我が国の大学等における研究環境の国際化を推進するため、世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）等の事業の成果を情報発信するとともに、外国人研究者の定着に関する課題の分析と我が国の若手研究者養成のためのプログラム全体の状況を踏まえた上で、外国人特別研究員招へい事業等で採用された外国人研究者が日本の研究機関により定着するための方策を検討する。

(6) 国際学術情報の一体的な分析と活用

学術情報分析センターや海外研究連絡センターにおける学術情報の収集・分析を踏まえて、国際学術情報の一体的な分析を行い、その知見を JSPS の国際的な取組の効率化と強化に活用する。